市政に対する

一般質問



安間 亨 議員

子どもの不登校と保護者の就労環境

問 子どもの行き渋り・不登校に伴う保護者の就労への影響について、市の考えは。

答 現在、こども若者家庭センターが窓口となり、保護者からの相談を受けており、子どもへの対応が保護者の就労に影響を及ぼし、休業や退職を検討せざるを得ないケースがあることを把握している。また、市内の事業者には、子どもの行き渋りや不登校に悩む従業員の働き方に柔軟に対応し、就労継続を支えている事例があることも承知している。家庭の幸せと従業員の定着の双方に直結する課題であり、どちらかを優先するのではなく、ともに乗り越えられるための方策を見いだし、離職を防いでいくなどの必要があると考えている。

問 市内事業者への情報提供や啓発は。

答 休暇制度をはじめ、時差勤務やテレワークの活用などに先進的に取り組む事業者や、本市での取組事例も含め整理していく。今後、袋井商工会議所や浅羽町商工会との定期的な意見交換の場での紹介や市ホームページへの掲載、こども若者家庭センターを通じたPRなど、さまざまな機会を通じ、積極的に情報発信し、事業者への横展開を図っていきたい。



袋井市こども若者家庭センター



兼子 靖基 議員

日本一の防災先進都市へ

問 市内小学校における「防災教育」についての取組は。

答 防災の知識を有する方々の知見を教育の中に取り入れ、学校と地域が一緒になって子どもと地域の防災を高めていく取組を推進してまいりたい。三川小学校の防災への取組は教育委員会まで届いている。講師の「うんちまん」も大変有名になっている。今後、より子どもたちが防災意識を向上できるよう防災教育を進めてまいりたい。

問 台風や豪雨による増水時の市内の河川監視カメラについて、ライトの色により視覚的に伝えることは大変有効であると考えるがどうか。

答 静岡県土木総合防災情報「サイポスレーダー」は、氾濫危険度の水位の状況を色別で確認できる。視覚的な伝え方について有効と考えられるものは検討してまいりたい。

問 日本積載車・レッカー事業協同組合との災害協定について現在の進捗状況は。

答 現在、市内のレッカー事業者が所属する事業組合と協議を進めている。他自治体の取組状況を参考に、費用負担や安全管理、移動した車両の保管場所の検討など課題を整理した上で、協定締結に向けて取り組んでいく。



三川小学校での防災アカデミーの取組



太田 裕介 議員

ながら運転を許さない袋井市を目指して

問 ながら運転根絶パートナー制度の創設はできないか。

答 ながら運転の根絶を目指すパートナーを募る制度については大変有効な手段と考えている。制度の名称や目的、具体的な取組内容などについて、袋井警察署をはじめ、交通安全に関わる団体や商工団体とも協議をし、制度設計に向け進めてまいりたい。

問 脇見などの運転者の状態を検知し警報するドライバーモニタリングシステムなどを、公用車などへ小規模に先行導入できないか。

答 公用車への安全運転支援装置の設置は2031年9月の搭載義務化に先駆けて、まずは長距離走行が多い車両から導入を進めてまいりたい。

クラウンメロンのまち袋井を守る施策を

問 近隣市においてもクラウンメロンを活用した地域の魅力発信が進むが、「クラウンメロン＝袋井市」という都市ブランドを守る施策をするべきではないか。

答 クラウンメロンの主産地は袋井市であるという地位を守り、揺るぎないものにしてまいりたい。



ドライバーモニタリングシステムのイメージ